子どもは人類の宝もの②

自分の仕事は楽しくし、その結果周りの方に喜んで頂く。これは仕事の鉄則だと考えています。もちろん私の仕事は子どもたち相手ですから楽しくない訳はないのですが、塾ですから先生が子どもを叱ったり、上司が新人を注意するという『私にとって楽しくないこと』は日常の出来事です。しかしその行為は全体の益のためであり、相手のためになることが周知の事実なので仕方のないことです。

様々な場面で『人の役に立つ仕事に就きたい』と子どもたちは口にします。そんな折、私は『人の役に立たない仕事は、ドロボーとサギ師です。それ以外の仕事は全て人のためになります』と、申します。しかし実は人の役に立つと言うことは容易なことではないのです。人の役に立つということは人に喜んで頂くことは当然のことです。更に瞬時にその判断を下し自己満足に陥らないために、お客様や共に働く人と心を重ねなければ成立しないのです。

永い目で見て、結果的に自分の仕事が公の益に繋がることが、楽しい仕事なのですが、子どもたちには伝わりにくいのかもしれません。例えば、家の基礎工事を請け負う方の仕事は完成時や住み心地に全く影響が無いように見えます。その上何十年後、或いは有事の際に施工時の心意気がお客様に伝わる事も稀かもしれません。それでも住む方の立場に立って、また次の工程を行う方の立場に立つことが重要であり『人の役に立つ仕事』の仕方なのだと伝えていきたいと考えております。

昨年の東日本大震災では日本のみならず世界中の多くの方が、被災された方々と心を重ねた結果が義援金でありボランティアでした。人間は誰に教えて貰う訳でもなく、人に喜んでもらうことが嬉しいと感じられる素晴らしい生き物です。しかし、私のように日々の生活にしか目を向けることの出来ない器の小さな人間は、ややもすると結果を急ぎ小手先の小賢しい行いに陥ってしまいがちです。そんな折、私は携えている「ほほえみ読本」に助けを求めております。少しでも良い方向に、皆様もそして私もと念じながら。

有限会社　総合教育
代表取締役社長
土井（どい） 悦代（えつよ）

3人娘の母であり学習塾関塾の塾頭。家庭教師５年の経験を活かし、12年前 関塾を開校。様々な苦悩を乗り越え、子どもを想う気持ちから始めた一教室が現在では長野県・新潟県の地区本部となっている。この他、長野県内高等学校の評議員も務める。

http://s-nakagosyo.kanjuku.ne.jp/

草の学校

草や花は、四季それぞれの草ことば・花ことばを持っています。タンポポは「真実」、スギナは「向上心」、ハコベは「追想」、ツユクサは「尊敬」・・。人の想いが草や花に寄せられて付けられたのでしょう。草や木の一生は、人の一生に似ています。

芽を出して、茎を伸ばし、花を咲かせ、実をつけて、枯れてゆきます。与えられたいのち（宿命）、自分の天分を活かし（天命）、いのちを使い（使命）きったとき、死命がきて、枯れてゆきます。これを樹命（寿命）といいます。枯草の草ことばは「明日」です。

いつでも、どこでも、だれにでも草の学校は開かれます。草の学校は草と語り、草と遊び、草を活かし、草を学ぶことです。草の学校の先生は、草先生、花先生、大空先生、風先生、雪先生、そして大地先生です。草の学校に校舎はありません。草のあるところが学校です。

一人一校をモットーに、まず一人から、親と子から、家庭から、地域から、タンポポの花のように風と遊び、草の学校の花が飛んでゆきます。

天地微笑

天が微笑み　地が微笑む
山に向って微笑めば　山が微笑み
河に向って微笑めば　河が微笑む
風に向って微笑めば　風が語りかけ
花に向って微笑めば　花の言葉がかえる
天地微笑のなかに　今、ここに
この自分がいのちいっぱい生かされて、在る

狩野　誠